

EN (絶滅危惧 I B 類)

翼手目 ヒナコウモリ科

カテゴリー判定基準：C-2

コヤマコウモリ

Nyctalus furvus Imaizumi & Yoshiyuki, 1968

英名：Japanese lesser noctule

旧レッドリストカテゴリー		
1991	1998	2007
—	EN	VU

日本固有種

青森県、岩手県、秋田県、福島県、栃木県、長野県の合計15ヶ所から採集記録があるのみである。自然林が消失するにともなって分布域が極端に狭まっているので、個体数も激減していると思われる。

The Japanese lesser noctule, *Nyctalus furvus*, is reported only from 15 areas of Aomori, Iwate, Akita, Fukushima, Gunma, Tochigi, and Nagano Prefectures in Japan.

基礎情報

■**形態** 前腕長48～53mm、頭胴長76～84mm、尾長46～54mm。暗褐色系の体毛を持つ。近縁種ヤマコウモリとは大きさが顕著に異なるので、区別は容易である。

■**分布域** 岩手県の10ヶ所を除くと、青森県、秋田県、福島県、栃木県、長野県各1ヶ所からの計15地点から確認されているのみである。岩手県の1つの生息場所では最大30頭くらいが集合し、冬眠すると報告されている。

■**生息環境** 落葉広葉樹の自然林に生息する。

■**生活史** これまでの記録は岩手県を除くと、ほとんどが単独、1ヶ所のみ2頭の記録であり、詳細は不明である。ただ岩手県の1ヶ所では最大30頭が集合し、冬眠することが報告されている。

現在の生息状況

■**分布域の現況** 青森県、岩手県、秋田県、福島県、栃木県、長野県の落葉広葉樹の自然林の限定された15ヶ所からの採集記録があるのみである。

■**生息地の現況** 生息確認が多くなく、詳細は

不明であるが、樹洞を昼間のねぐらとしていると思われるが、集団が知られる唯一のものは、家屋であり、冬眠に利用されている。繁殖集団は一例も知られていない。

■**個体数の現況** 正確な個体数は不明であるが、岩手の1つの生息場所では最大30頭くらいが集合し、冬眠すると報告されている。集団に関する資料はこれのみであり、この数値をこれまで確認されている地点数15に乗じると450頭となる。

存続を脅かす要因

森林伐採 (11)、湿地開発 (15-1)、何年も続いている大径木の伐採によるねぐらの消失。また、樹洞のある大木を一部残したとしても、周辺に年中昆虫類が一定量発生する環境を残さなければ、生息環境として不十分である。

保護対策の現状

とくになし。

特記事項

ねぐら確保のために樹洞を有する大径木を伐採しないことや、大径木を有する森林を一部分でも残すことができる場合には、最低でも1km²単位にすることが望まれる。

参考文献

- 阿部永・石井信夫・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明, 2008. 日本の哺乳類改訂2版. 東海大学出版会, 秦野. 206pp.
- 遠藤公男, 1973. 原生林のコウモリ. 学習研究社, 東京. 183pp.
- Imaizumi, Y. and M. Yoshiyuki, 1968. A new species of Insectivorous bat of the Genus *Nyctalus* from Japan. Bull. Nat. Sci. Mus. Tokyo, 11: 127-134.
- 環境庁編, 1993. 日本産野生生物目録—本邦産野生動植物の種の現状—脊椎動物編. 日本野生生物研究センター, 東京. 80pp.
- 前田喜四雄, 1984. 日本産翼手目の採集記録 (1). 哺乳類科学, (49): 55-78.
- 日本哺乳類学会編, 1997. レッドデータ日本の哺乳類. 文一総合出版, 東京. 279pp.
- 山本輝正・佐藤顕義・勝田節子, 2008. 長野県におけるコヤマコウモリ *Nyctalus furvus* とクビワコウモリ *Eptesicus japonensis* の採集記録. 哺乳類科学, 48(2): 277-280.
- 吉倉智子・渡辺真澄・安井さち子, 2011. 栃木県におけるコヤマコウモリ *Nyctalus furvus* の初記録と音声構造. 栃木県立博物館研究紀要—自然, (28): 45-49.

執筆者：前田喜四雄（奈良教育大学 名誉教授）